

激甚被害校へのアンケート用紙

今回の東日本大震災の被害や対応のついてお聞きします。回答は、すべて回答用紙にご記入ください。

1. 学校のプロフィール
学校名 () 記載者 () 職名 ()
学校所在地 () (都道府県名) () (市区名)
学校種 ①高等学校 ②中学校 ③中等教育学校
④中学校・高等学校 ⑤中高一貫校(併設・連携) ⑥小学校
課程(1) ①全日制 ②定時制
課程(2) ①普通科 ②職業科・専門学科 ()
男女別 ①共学校 ②男子校 ③女子校 ④男女別学 ⑤その他
在籍数 () 人
2. 震災による物的被害の状況
(1) 液状化など建造物(校舎・体育館など)に被害がありましたか。
①大いにあった ②多少あった ③なかった
(2) 施設備品などに被害がありましたか。
①大いにあった ②多少あった ③なかった
(3) ①、②と答えた方、学校運営上、どのような支障がありましたか。
3. 被災生徒はどのくらいいましたか。また、それにどう対応されましたか。
(1) 本人が死亡または行方不明 人数
その対応
(2) 家族に死亡または行方不明者がでた 人数
その対応
(3) 家屋が倒壊または流失した 人数
その対応
4. 被災教職員はどのくらいいましたか。また、それにどう対応されましたか。
(1) 本人が死亡または行方不明 人数
その対応
(2) 家族に死亡または行方不明者が出た 人数
その対応
(3) 家屋が倒壊または流出した 人数
その対応
5. 3月11日地震発生当日の学校の教育活動はどのようなものでしたか。(複数回答可)
①平常授業 ②校外授業 ③学校行事(行事名)
④午前中・短縮授業 ⑤その他 ()
6. 地震発生時の生徒の状況についてお聞きします。
(1) 地震発生時、校内に生徒は何人くらいいましたか。
①全校生徒がいた () 人 ②一部の生徒がいた () 人
③生徒はいなかった
(2) ②と答えた方、それはどんな生徒たちですか。(例:部活動、補習授業等)
7. 生徒が校内にいた学校(6.で①または②と答えた方)にお聞きします。
(1) 避難誘導はいかがでしたか。
①大変スムーズにできた ②ほぼスムーズにできた
③あまりスムーズにできなかった ④かなり混乱した

- (2) ①、②と答えた方にお聞きします。
スムーズにできた理由を具体的にお書きください。
- ③、④と答えた方にお聞きします。
スムーズにできなかったことや混乱したことはどんなことでしたか。
8. 地震発生後の生徒の掌握（点呼・安否確認）をどのようにされたか、お聞きします。
- (1) 校内にいた生徒の点呼はどのようにされましたか。
例 避難場所に指定していたグラウンドに集めて、担任が点呼した。
- (2) 下校途中の生徒がいた学校にお聞きします。
そうした生徒をどのように掌握しましたか。
- (3) 学校以外での活動に参加していた生徒がいた学校にお聞きします。
校外活動中の生徒をどのように掌握しましたか。
- (4) 帰宅していた生徒をどのように掌握しましたか。
- (5) 安否確認作業にどれくらいの日数がかかりましたか
9. 地震当日、帰宅困難なため学校に宿泊した人数をお書きください。
①生徒（ ）人 ②教職員（ ）人 ③保護者（ ）人
④その他（出入り業者など）（ ）人
10. 保護者との連絡手段についてお聞きします。
- (1) 学校の主要連絡手段は下記のどれでしたか。（複数回答可）
① 電話連絡網 ②メール連絡網 ③学校のホームページ
④ 緊急時一斉配信メール ⑤災害時緊急連絡放送（ニッポン放送等）
⑥ その他（ ）
- (2) 学校の連絡手段は有効でしたか。
① 有効だった ② 役立たなかった
- (3) 役立たなかったと回答された学校にお聞きします。
どのような代替連絡手段をとられましたか。
11. 震災時における学校組織の指揮系統、教職員の協力体制はどうでしたか。
- (1) 指揮系統の有効に機能した点や反省点をお書きください。
- (2) 教職員の協力体制で有効に機能した点や反省点をお書きください。
12. 避難所など学校運営以外の目的に使われたかお聞きします。
- (1) 避難所等として使われましたか。
①使われた ②使われなかった
- (2) 避難所等として使われた学校にお聞きします。
- ア. 事前に自治体との間に避難所に関する契約を結んでいましたか。
①結んでいた ②結んでいない
- イ. 避難所等として使われた目的は何でしたか。
①近隣住民の避難所として ②死体安置所として
③自衛隊の駐屯地として ④支援物資の中継地点として
⑤その他（具体的に ）
- ウ. 避難住民にどう対応しましたか。
①積極的に門戸を開いた
②住民のニーズに応じて開放した
- エ. 行政組織との連携はどうでしたか。
①スムーズに連携がとれた
②当初連携がとれなかったが次第に連携がとれるようになった
③最後までうまく連携がとれなかった

*①や②のスムーズに連携がとれた理由は何ですか。

*③のスムーズに連携がとれなかった原因は何ですか。

オ. 学校として困ったことはなんですか。(複数回答可)

- ①食料、水等の備蓄が少なかったこと
- ②避難住民との意思の疎通がうまくいかなかったこと
- ③教育活動の場が長く奪われたこと
- ④その他(具体例)

*それにどう対処されましたか。

カ. 学校再開に向け、避難住民の退去はスムーズに行なわれましたか。

- ①スムーズに行われた
- ②スムーズに行われなかった

*②の理由はなんでしたか。

13. 学校再開にむけての学校側の対応についてお聞きします。

(1) 震災当日の学校は、どうされていきましたか。

- ①平常授業日
- ②午前中授業日
- ③休業日

(2) 震災後初の登校日はいつですか、また、それを設定した理由事情は何ですか。

- ①登校日の期日
- ②設定理由

(3) 学校再開日の期日はいつですか、また、それを設定した理由事情は何ですか

- ①学校再開日の期日
- ②設定理由

(4) 生徒・保護者への連絡はどうされましたか

(5) 通学方法などについてのどのような工夫や指導をされましたか

(6) 学校再開や通学に関して生徒・保護者の反応はいかがでしたか

14. 学校行事の大幅な変更はありましたか。また、授業日数の確保はどのようにされましたか。

(1) <平成22年度内>

(変更した行事) (予定の期日 → 延期した期日) (中止)

例 卒業式 3/12 → 3/31

例 修了式 3/18 ○

(2) <平成23年度>

(変更した行事) (予定の期日 → 延期した期日) (中止)

(3) <授業日数の確保>

15. 震災発生時は学年末でしたが、進路(進学・就職)について困った生徒はいましたか。また、それにどう対応されましたか。

(1) 進学について入学を辞退するなど困った生徒が(およそ 人)いた
対応とその後

(2) 就職について内定が取り消されるなど困った生徒が(およそ 人)いた
対応とその後

16. 生徒のボランティア活動について

活動内容や参加者数、参加単位についてお聞きします。また、それに対する学校の指導方針はどのようなものでしたか。

指導方針については、○(積極的な参加を指導した)

△(自由な参加とした)

×(生徒からの希望があったが認めなかった)

で回答してください。

(活動内容) (参加人数) (参加単位) (学校の指導)

例 街路の瓦礫の撤去作業 約70人 学年(高2) ○

17. ボランティアの支援や救援物資を受け入れましたか。

(1) ボランティアを

①受け入れた ②受け入れていない

(2) 受け入れた支援はどんなものでしたか

(3) 救援物資を

①受け入れた ②受け入れなかった

(4) 受け入れたのはどんな物資ですか

(5) 受け入れた中で、ありがたかったことと困ったことをあげてください。

ア ボランティアの支援で

イ 物資の支援で

18. 生徒や教職員の中には震災の後遺症（主に精神面での）と思われるケースがあると思われます。具体例と、その問題にどう対応したか、お書きください。

(1) 生徒の事例と対応

(2) 教職員の事例と対応

19. 震災の影響や今後起こりうる災害について、学校として考えている対応について。

(1) 以下の中から該当するものをお選びください。（複数回答可）

① 生徒の安否確認の方法の改善 ② 連絡通信手段の改善（情報収集・発信）

③ 保護者への連絡・引き渡し手順の改善 ④ 防災マニュアルの見直し

⑤ 教職員の連絡・招集体制の見直し

⑥ 備蓄品（水・食糧・寝具等）の種類・量の見直し

⑦ 救急体制の拡充（保健室ベット数など施設整備、救急薬品・備品の充実等）

⑧ 災害についての安全教育の徹底 ⑨ 生徒・教職員の心のケア

⑩ 被災建物施設の再建・補修とその資金的見通し

⑪ 生徒募集への影響の評価とその対策

⑫ その他（ ）

(2) (1)で回答した項目のうち、とくに重要と思われるものについて、詳しくお書きください。

()

20. 原発事故の影響についてお伺いします。

(1) 原発事故の影響はありましたか。

① あった ② なかった

(2) どのような影響がありましたか。具体的にお書きください。

(3) それに対して、どのような対応をしましたか。

21. 半年経過して、生徒の在籍数に変化がありましたか。該当する生徒の欄に人数とその理由をお書きください。

(1) 退学・転校した生徒がいる 人数

(2) 在籍しているが登校していない生徒がいる 人数

(3) 転入してきた生徒がいる 人数

22. 大震災発生以来6ヶ月余りを経過した今、当時を振り返って反省すべき点、また防災教育や危機管理の面で、今後の課題や教訓としたい事がありましたらお書きください。

23. その他、特に記述しておきたい事、訴えたいことがございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

震災時の学校対応の在り方に関する調査アンケート回答用紙

1

学校名		記載者		職名	
学校所在地	(都道府県)			(市区)	
学校種	課程(1)		課程(2)		
男女別			在席数	()人	

2

項目番号	回答欄	項目番号	回答欄	項目番号	学校運営上の支障
(1)		(2)		(3)	

3

項目番号	回答欄	対応
(1)	人	
(2)	人	
(3)	人	

4

項目番号	回答欄	対応
(1)	人	
(2)	人	
(3)	人	

5

選択 (複数選択)		(行事名)	
その他			

6

項目番号	回答欄
(1)	()人
(2)	②と答えた方

7

項目番号	回答欄
(1)	
(2)	

8

項目番号	回答欄
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

9

項目番号	回答欄	項目番号	回答欄	項目番号	回答欄	項目番号	回答欄
①	人	②	人	③	人	④	人

10

項目番号	回答欄	項目番号	回答欄
(1)	その他()	(2)	
(3)			

11

項目番号	回答欄
(1)	
(2)	

12

項目番号	回答欄	
(1)		
(2)ア		
(2)イ	(⑤の回答の方)	
(2)ウ		
(2)エ	理由あるいは原因	
(2)オ		
	④その他	
(2)カ	②の理由	

13

項目番号	回答欄		
(1)			
(2)	登校期日(月 日)	理由	
(3)	再開期日(月 日)	理由	
(4)			
(5)			
(6)			

14

項目番号	回答欄	変更行事	予定の期日→延期の期日	中止
(1)	22年度内			
(2)	23年度			
(3)				

15

項目番号	回答欄		
(1)	およそ () 人	対応と その後	
(2)	およそ () 人	対応と その後	

16

	(活動内容)	(参加人数)	(参加単位)	(学校の指導)
活動内容				

17

項目番号	回答欄	項目番号	回答欄	項目番号	回答欄
(1)		(2)		(3)	
(4)		(5)			

18

項目番号	回答欄
(1)	
(2)	

19

項目番号	回答欄(複数回答可)
(1)	⑫その他()
(2)	

20

項目番号	回答欄
(1)	
(2)	
(3)	

21

項目番号	回答欄	理由
(1)	人	
(2)	人	
(3)	人	

22

今後の 課題等	
------------	--

23

その他、 自由記述	
--------------	--

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

激甚被害校へのアンケート集計結果および考察

回答校……55校

1. 学校のプロフィール

学校所在地							
宮城県	17校	福島県	16校	茨城県	22校		
仙台市	12	福島市	4	霞ヶ浦市	1	稲敷郡	1
大崎市	2	郡山市	5	水戸市	5	つくば市	2
気仙沼市	1	いわき市	3	日立市	2	竜ヶ崎市	1
多賀城市	1	石川町	1	取手市	1	鹿島市	2
七ヶ宿町	1	会津若松市	3	牛久市	2	櫻川市	1
				行方市	1	土浦市	3

学校種		課程1		課程2		男女別		在籍数	
① 高	35	① 全	50	① 普通	49	① 共学	46	100未満	3
② 中	1	② 定	0	職専	10	② 男		100～299	9
③ 中等	3	無回答	5	無回答	4	③ 女	7	300～499	7
④ 中高	2			複数回答校あり 例 普通・商業		④ 別学		500～999	16
⑤ 一貫	10					⑤ 他	2	1000～	18
⑥ 小	4							無回答	2

2. 震災による物的被害の状況

建造物の被害		備品の被害	
① 大いに	23	① 大いに	21
② 多少	26	② 多少	30
③ なかった	5	③ なかった	4
どのような支障か ・新学期の開始が遅れた……多数 ・校舎の一部使用不可 教室の不足…多数 ・体育館の使用不可 行事の延期……多数 ・校庭に地割れ 使用不可 体育の授業部活動に支障……多数		・トイレ、水の使用不可 学校再開の遅れ ・授業に集中できない ・実習機器の利用確認に手間取った ・校舎、実習棟の損壊による休校 ・寮の生活備品に破損あり、一時的に不備 ・主たる校舎の全壊	

3. 被災生徒はどのくらいいましたか。また、それにどう対応されましたか。

(1)本人の死亡・行方不明		(2)家族の死亡・行方不明		(3)家屋の倒壊・流失	
0人	47校	0人	36校	0人	21校
1人	5校	1～5人	13校	1～5人	9校
2人以上	0校	6～10人	1校	6～10人	3校
		10人以上	1校	11～30人	7校
				31人以上	11校
対 応					
見舞金 2		見舞金・弔慰金支給 6 対応不十分(学校再開以前) 2 授業料免除・奨学金 6 心のケア カウンセラーの常駐 2		見舞金 9 授業料免除・減免 9 学用品・制服の支給 5 支援金制度を作成 転居先の斡旋(福島・原発)	

4. 被災教職員はどのくらいいましたか。また、それにどう対応されましたか。

(1)本人の死亡・行方不明		(2)家族の死亡・行方不明		(3)家屋の倒壊・流失	
0人	55校	0人	47校	0人	37校
1人		1人	3校	1～5人	13校
		2人以上	5校	6人以上	5校
対 応					
		・実家に帰れるように配慮 ・休暇中のため対応できず		・共済金の支払い 2 ・見舞金 8 ・義援金の支給 ・生徒寮の開放	

5. 3月11日地震発生日の学校の教育活動はどのようなものでしたか。(複数回答可)

①平常授業	②校外授業	③学校行事	④午前中・短縮	⑤その他
28	0	11	15	12

主な学校行事

- ・三者面談
- ・卒業遠足(6年)
- ・宿泊学習
- ・修学旅行…3校
- ・芸術鑑賞会
- ・生徒登校日
- ・卒業式、同練習…4校
- ・パスポート手続き中

その他

- ・すでに春休み中
- ・試験休み
- ・自宅学習日…3校
- ・休業日
- ・試験日…2校

6. 地震発生時の生徒の状況についてお聞きします。

(1) 地震発生時、校内に生徒は何人くらいいましたか。

① 全校生徒がいた			② 一部の生徒がいた			③ 生徒はいなかった		
16校			37校			2校		
人数	100人未満	1校	人数	50人未満	7校			
	100～300人	5校		50～100人	7校			
	301～500人	2校		101～200人	12校			
	501～1000人	4校		201～400人	5校			
	1001人以上	4校		401人以上	6校			

(2) ②と答えた方、それはどんな生徒たちですか。(例：部活動、補習授業等)

- ・部活……多数
- ・面談中の親子
- ・課外、講習受講生……多数
- ・模試、追試受験生
- ・学童保育児童
- ・平常授業中生徒
- ・スクールバス待ち
- ・謝恩会参加生徒
- ・自由登校生徒
- ・その他

7. 生徒が校内にいた学校(6.で①または②と答えた方)にお聞きします。

(1) 避難誘導はいかがでしたか。(無回答…1校)

(2) ①、②と答えた方にお聞きします。

スムーズにできた理由を具体的にお書きください。

③、④と答えた方にお聞きします。

スムーズにできなかったことや混乱したことはどんなことでしたか。

(1)	① 大変スムーズにできた	② ほぼスムーズにできた	③ ほぼスムーズにできなかった	④ かなり混乱した
	18校	30校	4校	2校
(2)	<p>①②の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少なかった…10校 ・日頃の訓練の成果……22校 ・校舎の損壊がなかったため ・指示が徹底した……4校 ・教員の対応・指揮系統が機能した…16校 ・低層のため移動が楽だった ・全員が同じ場所にいた(講堂) ・部活で全員が外にいた 			
	<p>③④の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落下物の散乱で避難経路が使えなかった ・停電のため放送設備が使えなかった……3校 ・予想以上に揺れが大きく高層階で混乱 ・教員が職員会議中のため在室する生徒数の把握困難 ・雪交じりの天候 ・安全を確保できる建物の判断に手間取った ・揺れの時間が長く避難移動のタイミングが難しかった……2校 ・安全な場所への迅速な避難誘導ができなかった 			

8. 地震発生後の生徒の掌握（点呼・安否確認）をどのようにされたか、お聞きします。

(1) 校内にいた生徒の点呼はどのようにされましたか。

- ・指定の避難場所に避難させ教員（担任・顧問）が点呼……50校
- ・その場で全員の安全を確認
- ・誘導したが、点呼をしていない
- ・校舎内に取り残された生徒の確認をしていない
- ・病院へ実習に出ていた生徒は教員が迎えて帰校後点呼

(2) 下校途中の生徒がいた学校にお聞きします。

そうした生徒をどのように掌握しましたか。

- ・駅や家庭に連絡 メールマガジンを利用
- ・合宿所を開放し保護
- ・一斉メール発信やメディアを通し、安否情報を学校に入れるよう通知
- ・掌握できなかった（電話の復旧まで）……15校

(3) 学校以外での活動に参加していた生徒がいた学校にお聞きします。

校外活動中の生徒をどのように掌握しましたか。

- ・連絡手段がなく確認が取れなかった…… 3校
- ・引率教員が点呼後携帯メールで学校に連絡…… 8校
- ・教員を学校に残し対応
- ・安否情報を学校に入れるよう通知
- ・海外留學生徒が空港へ向かう途中で地震が発生し、夕方帰校

(4) 帰宅していた生徒をどのように掌握しましたか。

- ・連絡手段がなく確認が取れなかった…… 7校
- ・メール等で確認…… 5校
- ・欠席者（1人）には電話で確認…… 2校
- ・（電話の復旧後）担任が確認……15校
- ・安否情報を学校に入れるよう通知
- ・14日登校時に確認
- ・特に対応せず…… 2校

(5) 安否確認作業にどれくらいの日数がかかりましたか

- ・避難場所での点呼で完了…… 1校 ・1～2時間…… 2校
- ・当日中…… 8校 ・2日…… 6校
- ・3日…… 8校 ・4～5日…… 1校
- ・1週間…… 8校 ・1週間～10日…… 3校
- ・2週間…… 4校 ・3週間…… 2校
- ・3月末（大学受験生、県外への避難者）…… 2校

9. 地震当日、帰宅困難なため学校に宿泊した人数をお書きください。

	① 生徒	② 教職員	③ 保護者	④ その他
0人	24人	26人	49人	48人
1～5	4	7	4	2
6～10	1	4		(他校生数人)
11～20	4	9		2
21～50	11	6		(避難住民20人)
51～100	2	3		
101～200	5			1
200～	3			(避難住民200人)

10. 保護者との連絡手段についてお聞きします。

(1) 学校の主要連絡手段は下記のどれでしたか。(複数回答可)

- ① 電話連絡網……………39校 ② メール連絡網……………13校
 ③ 学校のホームページ……35校 ④ 緊急時一斉配信メール……15校
 ⑤ 災害時緊急連絡放送……10校 ⑥ その他(校門に掲示)

(2) 学校の連絡手段は有効でしたか。

- ① 有効だった……34校 ② 役立たなかった……16校

*どちらもともいえないとの回答が……2校

(3) 役立たなかったと回答された学校にお聞きします。

どのような代替連絡手段をとられましたか。

- ・テレビ局、ラジオ局、新聞社等のメディア……多数
- ・災害伝言ダイヤル ・災害時有線電話 ・個人の携帯電話……多数
- ・郵送 ・教員自宅の固定電話 ・生徒の情報

11. 震災時における学校組織の指揮系統、教職員の協力体制はどうでしたか。

(1) 指揮系統の有効に機能した点や反省点をお書きください。

<有効機能点>

- ・学校長の指示、安全指導部の指示が通り、仕事分担、報告がスムーズに
- ・校長・教頭から、統一した指示が出され混乱はなかった
- ・管理職の打ち合わせと教職員の打ち合わせとがそれぞれ開かれ、有効に機能した
- ・震災後直ちに設置された学園全体の「安全対策委員会」が機能し、教員は児童・生徒に付き添うことに専念できた
- ・マニュアルにないことも管理職の指揮の下、適切に対応できた 特に水や食料の購入原発に関する情報収集と生徒対応に機能
- ・校外(東京)研修中の学年への、日程中止や帰路の選択も適切に指示できた

- ・「安全管理体制要領」が整備されており、指揮系統は有効に機能した
- ・管理職の早めの決断が、教員をスムーズに動かした
- ・校長が中心となって指示を出し全教職員が動いた。
- ・震災後の学校スケジュールを迅速に見直し、各家庭への連絡を徹底させた
- ・冷静に対応し、新たな指揮系統を構築しつつ迅速に判断できた
- ・学校事務室に対策本部を設置し、外回りの教員や生徒、保護者、管轄庁などとの情報のやりとりを指示し、窓口を一本化した
- ・帰宅困難生徒を分散させず、大きな集団で行動させたので、所在、状況の確認がしやすかった
- ・学園全体での会議を持ち、共通理解を図った
- ・地震対策本部を設置し、毎日数回の打合せ会を持ち、情報交換を行った
- ・指示系統を明確にし、組織的に取り組んだことが迅速な行動を生み出した
- ・本部を設置し、指示の一本化が図れた
- ・この本部から、今後の指示は全てホームページ上に掲示することが生徒に通知された
- ・上層部の指揮系統、役割分担が明確にできていて、生徒の安全確保ができた
- ・全寮制のため日常の防災訓練が実践として役立ち、指揮系統も機能した
- ・当日、校長不在にもかかわらず、指揮系統は機能した

<反省点>

- ・様々な状況を想定した訓練やマニュアルの見直しが必要
- ・指揮系統以前の問題として、地震対応のマニュアルが大変不備だった
- ・教職員全員が浮き足立ち、指揮系統の確認に手間取った
- ・備蓄が十分でなかった
- ・携帯電話が使えず、通信手段の見直しが必要だ
- ・同一キャンパス内の法人本部や大学との統一された対応がとれない場面も
- ・慌ててしまい、自分勝手な指示を出してしまったり、生徒よりも自分の安全を先にしたり、パニック時の様相が見られた
- ・正確な情報を得る手段を持っていなかったこと
- ・公衆電話が手近になかったこと
- ・想定外の事態で、地震と津波のマニュアルがなかった
- ・学校施設の復旧、整備に必要な力が、ガソリン不足や道路状況等で確保できなかった
- ・管理職の指示が生徒にまで徹底させられなかった 停電のため、放送が使えず、校長→教頭→学年主任→担任→生徒ではニュアンスの違いや誤解が生じた
- ・大型懐中電灯、ハンドマイクを職員室および各教室に置くことになった
- ・反省に基づき、ホームページに緊急掲示板を増設し、緊急時の情報伝達の円滑化を図ることにした
- ・火災時の避難マニュアルはあったが地震時の避難マニュアルはなかった
- ・現状把握、安全誘導、安否確認、生徒の帰宅方法等の検討と指揮が遅れた
- ・本校は、津波の被害は受けにくいと思われるが、今後の訓練課題になる
- ・外部の状況が把握できず、見込み判断で行動した部分が反省点

- ・これほどの災害に対する対応ができなかった
- ・保護者との連絡困難の反省に基づき、まちこみメールの利用登録をした
- ・保護者との窓口（問い合わせと安否確認）をどうするかが課題
- ・避難場所までの経路に危険な箇所があり、生徒が分散して避難することになった この際、トランシーバー等があれば教員が走って連絡を取り合うことにならなかったと思える
- ・通信手段を奪われたときのバックアップがなかった
- ・想定が甘かった
- ・緊急災害時のマニュアルは、あるだけでは役立たない 日頃から熟読し、教職員に徹底することが必要
- ・教員といえどもパニック状態になった 災害対策訓練で経験を積んでおく必要がある
- ・二つのキャンパス間の連絡手段が一時不通となり、確認の取れない時間帯が生じた

(2) 教職員の協力体制で有効に機能した点や反省点をお書きください。

<有効機能点>

- ・現状分析に基づく教員の協力的な判断、行動が生徒を守り得た
- ・現場の判断、対応、安全確保へ教員が一致していた
- ・自分の家庭も被災しているのに、生徒の安否確認に全力を傾け、一日も早い学校生活の再開に向け、一致協力していた。
- ・講堂での共同生活の中で教職員が情報を交換し、作業の分担、確認に寄与した
- ・帰宅困難生徒を教員が学校のバス6台を運転し送り届けた
- ・輪番による学校待機（宿泊）がなされた
- ・教職員間の食料の持ち寄りや供給がなされた
- ・「安全対策委員会」のもと、学園全体の教職員が助け合うことができた
- ・ライフライン停止後の寮の運営を教員の自主的判断と協力によって切り抜けた
- ・宿泊生徒への2交代制対応は、教員の協力による
- ・全教員が、生徒の帰宅に全力で当たった
- ・自宅損壊の職員、通勤状況の悪化により通勤困難な職員に無理をさせず、それ以外の教職員全員で協力した
- ・被災状況の確認や後片付け等全員一致の協力体制で臨めた
- ・学校のバスでの送りや、バスを待つ間の暖をとる場所の設定等に一致して協力できた
- ・指示の確認と、情報の交換を密にしあった
- ・当日、22時までは全教職員で対応し、以後は3グループの交代制を敷くことができた
- ・教員が生徒をよく掌握し、また、意見を本部に寄せてくれたことで、生徒に余計な不安を与えずにすんだ
- ・生徒の誘導、被害状況の把握が素早く出来た
- ・深夜、目付が変わる頃まで、ほぼ全教職員が校内に残り、生徒とその保護者への対応に当たってくれた スクールバス特別便の運行への協力も大きかった 運行会社の協力もありがたかった
- ・先生方が役割を分担して行動し、スムーズな対応が出来た
- ・教職員の協力と組織的な指揮系統により、確実な指示、命令、保全がなされた

- ・自分の家の被害や家族の安否において、避難住民への対応に協力してくれた
- ・校舎内の瓦礫の撤去や掃除に協力的だった
- ・逃げ遅れ生徒の確認や、化学薬品等の安全確認を協力して行えた

<反省点>

- ・教職員の避難所としては機能したが、地域への目配りも必要だった
- ・ガソリン不足から全教職員の集合が困難になった
- ・帰宅困難な生徒を自家用車等で各自宅まで送り届けるようとの指示に教員は協力的だったが、保護者の安否を確認することの指示が出せなかった
- ・今回は、教師自身の混乱状態も見られ、訓練時より時間がかかった
- ・校外に出ている教員との連絡方法が課題として残った
- ・幼い子供を持つ教職員にとって、原発事故、食料不足等は死活問題であり、学校運営と家庭との狭間に立たされ苦悩していた
- ・我が身が大事という部分が出てしまい、協力が十分でなかった

12. 避難所など学校運営以外の目的に使われたかお聞きします。

(1) 避難所等として使われましたか。

- ① 使われた……10校 ② 使われなかった……45校

(2) 避難所等として使われた学校にお聞きします。

ア. 事前に自治体との間に避難所に関する契約を結んでいましたか。

- ① 結んでいた……2校 ② 結んでいない……6校 無回答……2校

イ. 避難所等として使われた目的は何でしたか。

- ① 近隣住民の避難所として……9校 ② 死体安置所として……0校
 ③ 自衛隊の駐屯地として……0校 ④ 支援物資の中継地点として……0校
 ⑤ その他……1校（帰宅困難者）

ウ. 避難住民にどう対応しましたか。

- ① 積極的に門戸を開いた……5校 ② 住民のニーズに応じて開放した……4校

エ. 行政組織との連携はどうでしたか。

- ① スムーズに連携がとれた……2校
 ② 当初連携がとれなかったが次第に連携がとれるようになった……4校
 ③ 最後までうまく連携がとれなかった……2校

原因：指定避難所でなかった、電話の不通

オ. 学校として困ったことはありますか。（複数回答可）

- ① 食料、水等の備蓄が少なかったこと……5校
 ② 避難住民との意思の疎通がうまくいかなかったこと……0校
 ③ 教育活動の場が長く奪われたこと……4校
 ④ その他……4校（具体例：トイレ3、暖房2、毛布）

カ。学校再開に向け、避難住民の退去はスムーズに行なわれましたか。

- ① スムーズに行われた…… 8校 ② スムーズに行われなかった…… 0校

*食料がなかったので、他の避難所に誘導

13. 学校再開にむけての学校側の対応についてお聞きします。

(1) 震災当日の学校は、どうされていきましたか。

- ① 平常授業日……31校 ② 午前中授業日……16校 ③ 休業日…… 8校

(2) 震災後初の登校日はいつですか、また、それを設定した理由事情は何ですか。

① 登校日の期日

第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週以降
14日～19日	21日～26日	28日～2日	4日～9日	11日～16日	18日以降
9校	11校	8校	7校	8校	11校

② 設定理由

- ・交通機関の復旧……17校
- ・校舎の安全確認……10校
- ・生徒、家庭の安否確認……4校
- ・ガソリン不足の解消
- ・放射線量の確認……2校
- ・各種連絡……3校
- ・私物の持ち帰り……4校
- ・修了式、卒業式の実施……15校
- ・教科書の販売日
- ・除染作業に目処
- ・プレハブ校舎の完成
- ・その他

(3) 学校再開日の期日はいつですか、また、それを設定した理由事情は何ですか

① 学校再開日の期日

第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	以降
3月14～19日	21～26日	28～4月2日	4～9日	11～16日	18～23日	25～30日	5月1日以降
6校	5校	3校	13校	10校	12校	3校	2校

② 設定理由

* (2)の初登校日の設定理由に同じとした学校が大部分で、その他にあげられたものは、

- ・始業式・入学式を予定通り…5校
- ・ライフライン、通学路の復旧…2校
- ・仮設校舎の完成
- ・教育難民を出さない
- ・公立高校の入学式に合わせた

(4) 生徒・保護者への連絡はどうされましたか

- ・電話連絡網……8校
- ・電話連絡……28校
- ・学校のホームページ……30校
- ・メール（一斉配信、メールマガジン含む）……21校
- ・メディアの活用（TVのテロップ、ラジオ、新聞等）……22校
- ・文書の郵送（新入生の中学への郵送等）……13校
- ・登校日に連絡

(5) 通学方法などについてのどのような工夫や指導をされましたか

- ・スクールバスの運用……17校
- ・自宅待機、自宅学習を指示……2校
- ・公欠、出席停止、遅刻の公認等の扱い……10校

- ・始業の繰り下げ、授業の短縮（40分）…… 3校
- ・通学路の危険箇所回避を指導 ・余震への注意を喚起
- ・自転車、バイク通学者へ注意 ・通学困難者を学寮へ・学校ステイ…… 2校
- ・生徒個別の通学機関・方法を調査…… 3校 ・通学路別に保護者に送迎依頼
- ・特に指導なし（注意を喚起する程度）……20校

(6) 学校再開や通学に関して生徒・保護者の反応はいかがでしたか

- ・理解と協力を得られた…… 6校 ・好意、好感を持ってもらえた…… 5校
- ・再開の喜びを伝えられた…… 3校 ・安心してもらえた
- ・慎重な意見と早い再開を望む声とがあった
- ・多少不安を感じていたようだ ・スクールバスの遠方への対応できず、不満も
- ・放射線量への不安や疑問…… 3校
- ・再開に関し、交通手段の点から対応できない生徒の保護者から批判があった
- ・特に問題なし……26校

14. 学校行事の大幅な変更はありましたか。また、授業日数の確保はどのようにされましたか。

(1) <平成22年度内>

	延期	中止		延期	中止
修了式（終業式）	14校	24校	卒業式	7校	6校
春期講習（課外）	0	4	新入生説明会	8	6
二次募集入試	2	0	進級スクーリング	0	1
修学旅行	0	2	宿泊研修等	2	7
			特に変更なし	2校	

(2) <平成23年度>

	延期	中止		延期	中止
始業式	19校	0校	入学式	22校	1校
研修（修学）旅行	5	2	宿泊学習	0	2
運動会	0	3	マラソン大会	0	3
文化（学園）祭	0	2	水泳大会	0	1
スキー合宿	0	1	鼓笛パレード	0	1
吹奏楽コンサート	1	0	遠足等	1	1
施設見学	0	1	中間考査	0	1
			変更なし	6校	

- * 入学式を分散して実施 * 1学期の行事は全て中止
- * 内容を縮小して実施 全校合宿→全校遠足 運動会 → 球技大会

(3) <授業日数の確保>

- ・夏休みの短縮……29校 ・土曜日に授業…… 2校
- ・学校行事の見直し…… 3校 ・秋期休業の中止…… 1校

- ・冬休みの短縮……………2校
- ・自宅学習（課題→提出）…1校
- ・特に対策（対応）なし……………18校

15. 震災発生時は学年末でしたが、進路（進学・就職）について困った生徒はいましたか。また、それにどう対応されましたか。

- (1) 進学について入学を辞退するなど困った生徒が（およそ 人）いた
 0人……………52校
 1人……………3校 対応とその後：家計のため入学辞退（来年度再入学予定）、留学を取りやめ短大に入学、自衛隊に
- (2) 就職について内定が取り消されるなど困った生徒が（およそ 人）いた
 0人……………31校
 1人……………3校 対応とその後：新たな就職先を検討、勤務先の変更、本校でアルバイト
 2人……………3校 対応とその後：自宅待機に、2人とも市役所に臨時採用、就職先の変更
 5人……………1校 対応とその後：再就職先を斡旋（5人とも再就職）
 6人……………1校 対応とその後：地元企業の被災で取り消し（全員再就職）

16. 生徒のボランティア活動について

活動内容や参加者数、参加単位についてお聞きします。また、それに対する学校の指導方針はどのようなものでしたか。

指導方針については、○（積極的な参加を指導した） △（自由な参加とした）
 ×（生徒からの希望があったが認めなかった）で回答してください。

活動内容	参加人数	参加単位	学校の指導方針
介護施設の老人介助	のべ 130人	高1・2、卒、専1	○
水の配給	約 40人	部活動1～3年	△
支援物資の仕分け	約 30人	個人	△
瓦礫の撤去	約 50人	部活動（野球部）	○
避難所での活動	数人	個人	△
義援金集め	約 20人	有志	○
被災家屋の泥かき	3人	有志	○
被災児童対象サマーカレッジ	3人	有志	○
水の配球	数人		△
避難所での花壇作り	1人	個人	自主参加
避難所での物資運搬	約 50人	運動部	△
避難所、病院での奉仕活動	約 50人	運動部	△
避難所への慰問（合唱）	20人	部活動	○
炊き出し	20人	野球部	○

募金活動	10人	生徒会	○
街路の清掃	75人	高3・2・1年	○
教育支援	48人	高3・2年	○
瓦礫撤去	約200人	部活動	△
被災家屋の泥かき	約200人	部活+一般生	△
募金、避難所での奉仕	約300人	高1～3年	○
ガラス等危険物の撤去		部活+一般生	×
瓦礫の撤去 泥かき	約50人	部活+一般生	△
物資の配給 炊き出し	約40人	部活+一般生	△
瓦礫の撤去	20人	個人	△
避難所の手伝い	17人	小学4年	○
避難校児童との交流		小学3年	○

・生徒の自主性、自由な参加に任せた。……………数校

・無回答（認めなかった、把握していない）……20校

*認めなかった理由：放射能のため外での活動は勧められない

17. ボランティアの支援や救援物資を受け入れましたか。

(1) ボランティアを

①受け入れた……1校 ②受け入れていない……53校 無回答……1校

(2) 受け入れた支援はどんなものでしたか

・教室移動の際の物品運び

(3) 救援物資を

①受け入れた……30校 ②受け入れなかった……17校 無回答……8校

(4) 受け入れたのはどんな物資ですか

・飲料水……22校 ・食料品……13校 ・毛布……11校 ・衣類……6校
 ・マスク……5校 ・制服……3校 ・消毒液……4校 ・図書……2校
 ・文房具……9校 ・教科書……2校 ・義援金……2校
 ・その他（生理用品 ラジオ 靴 灯油 製氷機 ピアノ サッカーボール 敷物
 ソーラーライト フリーバスケット）

(5) 受け入れた中で、ありがたかったことと困ったことをあげてください。

ア ボランティアの支援で

・予定通り新年度を迎えられた

イ 物資の支援で

・物資の置き場に苦慮したが、ありがたかった

・全国のミッションスクールからの義援金と激励のメッセージは、生徒の心に響いた

・学園母体である教団からの食品の支援はありがたかった

- ・緊急用の飲料水はありがたかった……多数
- ・6月になってからの受け入れで、ありがたみが薄かった
- ・十分な量ではなかったが、助かった
- ・使い切った備蓄品が補充され安心感があった
- ・不足しているかどうかの確認がなく送られてきた
- ・保管場所の確保に苦慮した
- ・寮生や沿岸部の生徒には大変ありがたかった
- ・全寮制の本校にとって、全てがありがたかった
- ・震災当日宿泊する多数の生徒のための食糧支援（地域からの）がありがたかった
- ・全てに役立ち、生徒に配布した
- ・賞味期限が短く、備蓄にならない
- ・海外の飲料水で、味に違和感があった
- ・学内で活用できた
- ・ミネラルウォーターは、水道水の放射能汚染が懸念されることから、ありがたかった

18. 生徒や教職員の中には震災の後遺症（主に精神面での）と思われるケースがあると思われます。具体 例と、その問題にどう対応したか、お書きください。

(1) 生徒の事例と対応

- ・影響は大きいと思われるが、表には出ていない
 - 対応：教員は注意深く観察し、面談を行っている
 - ：学校カウンセラー、養護教諭の面談
 - ：「心の支援システム委員会」で総合的に対応
 - ：アンケートを採って対応
- ・恐怖感（余震、津波から海を見ること）から外出できない
 - 対応：時間の経過とともに登校が可能に 声掛けを多くする
 - ：面談、カウンセリングで回復
- ・鬱的症状
 - 対応：心療内科での治療 回復せず通信制高校へ
- ・睡眠不足 フラッシュバック・夢に見る・うなされる
 - 対応：保護者と連携 スクールカウンセラーとの面接
- ・防災訓練で泣き出す
 - 対応：訓練の意味を伝える 放送のアナウンスをソフトに
- ・放射線に対する不安
 - 対応：除染 線量の定期的測定 個人積算量の計測
- ・4～5月に不安で保健室で休む
 - 対応：教員の言葉に注意を喚起
- ・避難所生活生徒へのストーカー行為
 - 対応：警察への通報 カウンセリング

- ・情緒不安定 抑鬱気分 無気力
対応：定期的カウンセリング
- ・何かをきっかけに家族のことを心配する
対応：きっかけを作らない生活環境への配慮
- *特になし（無記入）……27校

(2) 教職員の事例と対応

- ・司書事務が図書室で図書が飛び出す経験
対応：自分からカウンセラーに相談
- ・睡眠不足
- ・心身の疲れ
対応：復旧作業を共にすることで回復
- ・放射線に対する不安 乳幼児のいる教員の不安
対応：児童・生徒に対する対応に同じ 講演会
- ・心のケアを必要とする
対応：県費でカウンセラーを配置、養護教諭と連携して対応
- ・放射能に対する過敏な反応
：退職 転居
- *特になし（無記入）……45校

19. 震災の影響や今後起こりうる災害について、学校として考えている対応について

(1) 以下の中から該当するものをお選びください。（複数回答可）

- ① 生徒の安否確認の方法の改善……32校
- ② 連絡通信手段の改善（情報収集・発信）……44校
- ③ 保護者への連絡・引き渡し手順の改善……33校
- ④ 防災マニュアルの見直し……38校
- ⑤ 教職員の連絡・招集体制の見直し……18校
- ⑥ 備蓄品（水・食糧・寝具等）の種類・量の見直し……39校
- ⑦ 救急体制の拡充（保健室ベット数など施設整備、救急薬品・備品の充実等） 8校
- ⑧ 災害についての安全教育の徹底……35校
- ⑨ 生徒・教職員の心のケア……13校
- ⑩ 被災建物施設の再建・補修とその資金的見通し……27校
- ⑪ 生徒募集への影響の評価とその対策……22校
- ⑫ その他（原発事故への対応（除染問題）、備蓄品に暖房と発電への対応品） 2校

(2) (1)で回答した項目のうち、とくに重要と思われるものについて、詳しくお書きください。

- ・想定外の事態への対応
- ・原発事故による転出者が多く、今後の経営に不安
- ・日頃からの訓練や指導の重要性

- ・通信手段・備蓄品の確保 建物・施設の補修と強化
- ・安否確認に災害掲示板の活用
- ・緊急時の下校方法のマニュアルの作成（家庭との共有）
- ・マニュアルだけに頼らない体制づくり
- ・原発事故による風評被害
- ・他県からの生徒の受け入れ その宿泊先、学費、生活費等
- ・備蓄品の強化
- ・保護者への連絡、学校の対策
- ・通信手段の確保 メールサーバー、web サーバーの安全確保
一斉配信メール、伝言ダイヤル
- ・校舎の耐震検査
- ・毎年4月に、授業の中止の判断・保護者への連絡・引き渡し方法の確認
- ・防災マニュアルの見直し
- ・生徒が移動中の対策
- ・心のケア 「心の健康」講話、研修会
- ・資金面への援助の厳しさ
- ・原発事故への対応 除染問題
- ・情報不足、伝達手段の整備
- ・水洗トイレの水の確保
- ・半年たっても再建の見通しが打ち出せない政府のスピード感のなさ
- ・生徒の引き渡し方法 保護者に直接か安全確認の上の帰宅か
- ・下校方法の確認と安全な下校
- ・情報の共有
- ・広範囲な通学路への対応
- ・被災者支援の方法
- ・原発事故による児童の減少は対策の打ちようがなく、致命的な打撃だ
- ・学校休業中や夜間に起きた場合の安否確認方法の確立

20. 原発事故の影響についてお伺いします。

(1) 原発事故の影響はありましたか。

① あった……36校 ② なかった……19校

(2) どのような影響がありましたか。具体的にお書きください。

- ・復興の遅れが授業再開の遅れに
- ・他校への転出……………16校
- ・学校経営への悪影響……………3校
- ・教員採用予定者の辞退
- ・生徒募集への影響……………3校
- ・避難地域の生徒と家族が避難生活……………2校

- ・サポート校の閉鎖
- ・放射線量への不安……………15校
- ・入学辞退……………4校
- ・給食材料の産地の問い合わせ
- ・福島からの転入……………3校
- ・校庭（グラウンド）の使用を控える……………3校
- ・屋外での活動に不安……………2校
- ・行事の変更、中止……………2校

(3) それに対して、どのような対応をしましたか。

- ・可能な範囲で対策を練ったが、基本的には「いたしかたなし」
- ・生徒募集の広報で正確な情報を提供
- ・自宅に戻れない生徒に寄宿舎を提供
- ・線量の定期的測定 教員間の共有と保護者への発信……………6校
- ・転入については担任が苦勞するが、きめ細かい指導を
- ・外での活動時間の短縮・制限……………2校
- ・校庭・グラウンドの改修工事を実施……………2校
- ・放射線科医師の講演会
- ・食材産地の開示
- ・線量の低さをPR……………1校
- ・高圧洗浄機による除染……………6校
- ・空気、水、野菜等の安全性の確認
- ・表土の入れ替え 除草……………9校
- ・原発事故による転出は、対応という次元の問題ではない…2校
- ・入寮させる

21. 半年経過して、生徒の在籍数に変化がありましたか。該当する生徒の欄に人数とその理由をお書きください。

人 数	(1) 退学・転校した生徒がいる	(2) 在籍しているが登校していない生徒がいる	(3) 転入してきた生徒がいる
0人	18校	45校	30校
1～2人	14校	5校	20校
3～5人	13校	2校	2校
6～10人	5校	2校	1校
11～20人	4校		
21人以上	1校	1校	1校

22. 大震災発生以来6ヶ月余りを経過した今、当時を振り返って反省すべき点、また防災教育や危機管理の面で、今後の課題や教訓としたい事がありましたらお書きください。

- ・状況が悪化するのとは想定外の事態が発生した時であり、どれだけ想定し準備しても、常にその上に行く非常事態が発生しうることが分かった。
- ・リスクマネジメントを実行して最大限災害に備えることと共に、その備えが外れた場合の心構えを持ち続ける必要がある。
- ・停電等のライフラインの機能停止の際、どう対応するかその準備とマニュアルの必要性を再認識させられた。
- ・各種機器が使用不能となった場合を想定し、生徒基本情報の保存、管理の有り方を考えさせられた。
- ・想定外の大震災でしたが、被害も少なく生徒の事故もなく済むことができました。
- ・今後は、今回の震災を教訓にし、常に防災教育・指導、危機管理の徹底および寄宿舎の食糧備蓄なども考えていきたい。
- ・施設・設備の点検強化と補充を課題とする。
- ・交通機関のマヒや電話の不通に備え、災害掲示板などの活用が望まれる。
- ・耐震強度の低い建物は、新築ビルにする予定である。
- ・さまざまな場面を想定した訓練の回数を増やす必要がある。
- ・災害時の生徒の把握が今後の課題であり、漏れのない対応方法を研究していく。
- ・学校施設の計画的整備が課題である。
- ・帰宅困難生の宿泊設備、各種備蓄品の確保が課題である。
- ・引き取りを基本としていたが、場合によっては学校で預かる体制を考えておかなければならない。
- ・今回有効だったメールマガジンや web ページは、サーバーが都内の大学にある。東京で大きな災害が起きればどうなるのか……
- ・防災マニュアルと連絡通信手段の見直しが課題である。
- ・日々の生活の中で規律ある行動ができる指導を今後も続けていく。また、「自分の身は自分で守る」ための的確な判断力と冷静な行動力を培っていかねばならないと考える。
- ・従来の地震への対応マニュアルでは対応しきれなかった点を反省し、冬場でも対応できる各種備品の備蓄・設備を整えていきたい。
- ・心の問題を抱えている人たちも、ひとりで悩んでいる人もいるので、声掛けを今まで以上に細かく回数も多くしていく必要を感じている。
- ・連絡手段、避難方法の確立と訓練の実施、水等の備蓄、非常用電源の確保など課題は多い。
- ・季節、天候をも考えたマニュアルと備蓄が必要だ。
- ・全校生徒が在籍する時間帯での災害を頭に入れ、備えを万全にしていきたい。
- ・生徒の心の問題が、今後どうなっていくのか注視していきたい。
- ・同一キャンパス内の本部や大学との連携を構築していく必要がある。
- ・生徒の安全と教育の継続を中心に据え、対応を考えていきたい。
- ・危機管理のマニュアルの再点検と、電話不通の場合の連絡システムの構築が課題だ。
- ・テントの設置を考えたい。発電機を購入したが学校にとって思わぬ出費であった。

- ・職員との連絡や出勤が困難であったことをどう解消するかが課題である。
- ・ガソリン等の確保を公的に展開してもらう必要がある。
- ・全寮制の教育機関ゆえの食糧の確保、健康管理はもとより、生活の場を整備しておく必要がある。
- ・生徒、教職員に対する生活ケアの充実を図る。
- ・非常時に学校のとる措置を保護者によく理解してもらうこと
- ・マニュアル通りだけでなく、震災時に自己の判断で行動できる力を高める訓練が必要である。
- ・宿泊した生徒の居場所が把握できておらず、迎えに来た保護者への対応に混乱を生じたことから。夜間といえども、人数、氏名と場所とを明確にし、適切な案内が可能なようにしたい。
- ・危機管理の全体組織の構築
- ・信頼できる情報源の確保
- ・トイレの水の確保
- ・放課後、登下校時、休日等の場合の対策マニュアルの作成が急がれる。
- ・次の社会の中心となる生徒たちへの防災教育の充実
- ・沿岸部にある学校ゆえ津波に対する警戒はしていたが、被害が甚大でライフラインの復旧が大きく遅れたことで、備蓄の不足を痛感した。
- ・通信網の不通と周辺道路の寸断で、安否の確認に苦慮した。
- ・年数回の避難訓練が必要だ。
- ・安否確認と同時に情報等の収集マニュアルが必要である。
- ・保護者や家屋をなくした生徒への公的補助・支援が不足していると感じた。
- ・大震災が起きた場合に、学校待機か家庭への帰宅かの判断基準を検討中である。
- ・対策として、防災マニュアルの見直しとメール一斉送信システムの導入を行った。
- ・通学圏、通学手段のデータベース化が必要
- ・ハード面の改善（緊急地震速報の受信方法、停電時への対応法、備蓄等）が急務
- ・避難場所近くに危機管理備品を常備しておく必要を感じた 離れた場所や校舎内では対応できない場合がありそうだ 校舎内には入れなくなる場合もある。
- ・防災教育、防災マニュアルの見直しを痛感、大川小学校の悲劇は人ごとではない。今回の災害をどう生かしていくか問われている。
- ・防災マニュアルにないM9.0、原発事故など想像もしていなかった。安全安心を確保する学校のあり方が根底から崩壊したと感じる。地震国であることを考えると学校単位の小規模な対策では不十分だと感じる。
- ・身を守ることに精一杯であったり、学校へ行く手段もなく苦しい日々が続いた。生徒との連絡も取れず眠れない日もあった。
- ・いつ災害が起こっても対応できる心構えを教員も生徒も持つことが大切だと思った。そのために必要なことを準備していきたい。
- ・地震と津波への対策を分けて、防災教育と危機管理に備えたい。
- ・災害時への対策としての問題点を一つ一つ解消していく方法しか考えられない。

23. その他、特に記述しておきたい事、訴えたいことがございましたら、ご自由にお書きください。

- ・TV、新聞等は利点もあるが、不正確な報道や風評被害を起こすなど、マイナス面も多く感じた。
- ・9月に教職員・保護者を対象に、日本原子力開発機構に依頼し、放射能に関する説明会を開催した。保護者からの質問も出たが、生徒の将来、放射線による健康被害について大きな不安を持っているようだ。
- ・ガソリンが入手できず移動が困難だった。
- ・原発事故の風評被害による生徒募集の困難さを痛感している。
- ・あるべき学校環境の整備と設備に経済的負担が大きい。
- ・復旧に要する費用は、私立の場合半分までで、自己負担が大きい。
- ・第三次補正で多少の増額が見込まれるが、対応の遅れに政府への不満が大きい。
- ・未曾有の災害であり、原発事故の問題など従来のやり方を踏襲するのはやめてほしい。
- ・放射線量の不安と被害は、計り知れないものがある。
- ・緑豊かな環境が、かえって線量が高いなど、許しがたい現状を何とかしたい、してほしい。
- ・放射線の影響が、今後生徒の精神面にどのように影響を及ぼすのか不安である。
- ・小学校低学年児や幼稚園児の県外転居による、今後の生徒の確保はどうなるのか。放射能の影響がいつまで続くのか、先の見えないところで、生徒も教員も不安である。
- ・この震災を機に強まった相互の絆を大切に、教育機関として「人材を育てる」ことを通して、復旧、復興に貢献していきたい。
- ・除染、復旧等の費用面の補助に、公立校との格差を感じる。
- ・山の中腹にある本校は、山からの放射性物質の流出の危険に絶えずさらされている。一時的な除染では済まされないので、公的レベルでの対策を早急に実行してほしい。
- ・情報公開がまずく、政府の発表は信じられない状況にある。
- ・除染費用は、公立、私立を区別すべきでない。
- ・国、県、市の除染への対応が遅い。
- ・支援・救援物資は全国からいただき、本当に勇気づけられました。また、普段は何も行動しないような生徒が、他人のために行動を起こしている姿を見て、感動しました。これからの教育を考える柱は、やはり「心」なのだと改めて思いました。
- ・公的な援助は、とても助かりましたが、申請から判定まで時がかかり、また、追加申請のできるものとできないものに分かれ、保護者の理解を得るのがむずかしかった。
- ・マスメディアの報道で心の痛みを感じることがありますが、本当の姿、形、心の内を現地で感じることを多くの人に望みます。形だけの助けでなく、自分がその立場になったときどう生きるか、良識ある行動を願います。
- ・危機管理の多種多様さ、多面性を自覚し、公私で最大の努力をしましょう。
- ・ガソリンの確保の件で、日頃よりの地域とのお付き合いが大切であることを感じた。
- ・地震と津波の被害は非常に大きく、復旧・復興まではかなりの時間を要すると考えられる。被災された人々の心的苦痛は計り知れないが、復興への道筋は大変でも、ある程度理想とする地域づくりに向けての歩みを踏み出している。

- ・これに反し、福島県はこれまでにない大きな問題に直面し、復興への将来像を描けないまま、日々、目に見えない放射線という敵と戦いつづけている。人々の生活環境の崩壊だけでなく、自然環境や生態系の崩壊までつながるこの事故を、一地方の出来事としてではなく日本全体のものとして共有し、問題解決に向けて英知を結集すべきである。
- ・教育に携わる人たちは、原子力災害の恐ろしさと、汚染が何十年と消えることなく続くことを正確に伝えていくべきである。
- ・パニックになるのでは？という疑念から、正確な情報を発信しなかった政府と東京電力には怒りすら覚える。これ以後、ほとんどの情報に信頼がおけなくなった。
- ・震災後何が変わったか、変わらなければならないか、生徒とともに考えていく機会を増やしていきたい。
- ・国の助成率や適応範囲が定まらず、復旧に著しい遅れを来している。
- ・公立校に比べ公的な手厚い支援は得られなかったが、全国の私学から支援の連絡や募金活動による支援を頂き大変感謝している。改めて私学の結束を感じた。
- ・災害救助法に基づく物品給与の手続きがかなり面倒であると感じた
- ・多方面から援助の手がさしのべられたが、その都度いろいろな書類を揃えねばならず、担当者は大変だった。
- ・校舎に一部損壊があったが、私立校の場合補助率の問題があり自己負担の部分が重荷である。その上、多くの子供が県外に避難し、入学する生徒数が予測できない状況から経営上の大きな問題になっている。
- ・放射能の除染も負担が大きい。除染により一時的に線量を下げても数ヶ月後には元に戻ってしまう。
- ・日頃気軽に口にしている、「目の前の子供に生命を賭ける」という言葉を突きつけられる体験でした。多くの先生方が、自分の家族より生徒や学校を選べるかという使命感を問われたと思います。内心忸怩たるものがあります。
- ・除染について不安を感じる。地域のPTAやボランティアが行っている除染で流されたものはどこに集まるのか。集まったものはどう除去されるのか。正しい知識と国、県、市レベルの指針が早急に必要かと思う。
- ・多くの地域、国からの支援物資のみならず、心の支えをもらったが、反面、政府の対応の遅れに腹立たしさを感じます。